

学年で視点を変えて学ぶ地元企業カイハラ（株）の出前授業

(1) 取組の過程

- ① 校内研修の実施（4月）
 - ・ 伝統工芸『備後紺』から始まったカイハラの歴史
 - ・ SDGs の観点でのカイハラでの取組
- ② 出前授業の系統的な視点と企業（カイハラ（株））との連携
 - 3年・・・工場の仕事
 - 4年・・・伝統工芸『備後紺』
 - 5年・・・SDGs への取組
- ③ 出前授業の実施 <講師・・・上岡さん（カイハラ（株））>
 - 3年 7月 「工場の仕事 ～カイハラのひみつ～」
 - 4年 11月 「伝統工芸のよさを伝えよう」
 - 5年 12月 「地域の環境と米作り」

(2) 出前授業を生かした取組の実際

① 3年 「工場の仕事 ～カイハラのひみつ～」

3年生は、社会科「工場の仕事」と総合的な学習の時間「常金丸発見」の合科として地域にあるカイハラ工場でデニムをどのように作っているのか、働いている人たちがどのような事をしているのか話をしていただいた。その後、PTC 活動でカイハラ常金丸工場で藍染体験をしたり、社会見学でカイハラ三和工場へ行ったりした。最後に出前授業から広がったカイハラ（株）について調べたり、見たりしたことを取り入れてデニムに関することをまとめて新聞づくりを行った。

ア 出前授業の様子

- ・ 工場の仕事
- ・ 紡績～染色～織機～検品～出荷までの行程
- ・ カイハラ工場デニムの特徴



カイハラ常金丸工場での藍染体験



カイハラ三和工場

イ 児童の感想

ぼくは、カイハラのおたから
きじを作るまでを新聞に
かきました。

思ったことは、これだけまひ
まをかけてもらっているから少し
カイハラのことを知りたかったです。

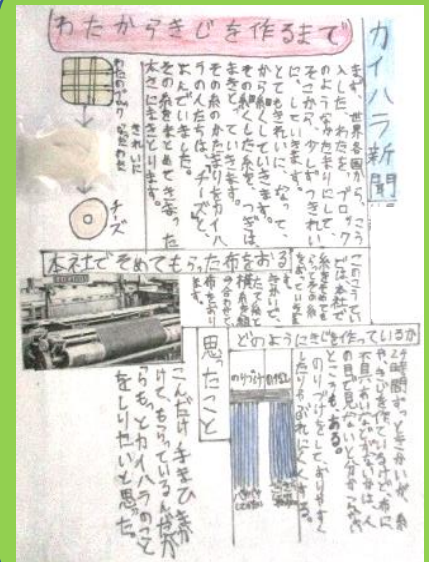
わたしはカイハラデニムができるまで
をかきました。社会見学でカイハラにい
ってカイハラのおいところやるじき
なとたいろいろまとめました。
思ったことは、きかいの力をかりな
がらも、人の目でたしかめてデニム
地ができてることがわかりました。

ウ 出前授業を終えて

地元カイハラ工場があることは知っていても、どんな物を作っているのか知らない児童がほとんどだった。出前授業で、昔から作られていた備後紺を藍で染めていたことからデニムの染色が始まったことを教えてもらい、地元にある企業に関心を持つことができた。

出前授業後の社会見学では、出前授業で聞いたことをもとに、カイハラ三和工場では海外で輸入した花から糸を作り、どのようにしてデニムになるのかを実際に見ることができた。

単元のまとめとして「カイハラ新聞」を書いて、カイハラ工場のひみつをまとめた。



②4年 「伝統工芸のよさを伝えよう」

4年生は社会科「県内の文化財と先人」と国語科「伝統工芸のよさを伝えよう」の合科で、地域に伝わってきた伝統工芸「備後紺」やそのよさについて講義をしていただき、伝統工芸に興味・関心をもたせ、県内の伝統工芸を紹介するリーフレット作りに取り組んだ。

ア 出前授業の様子

- ・ 備後紺とはどのような物か
- ・ 備後紺のよさ
- ・ カイハラ（株）の歴史 ～備後紺からデニムづくりへ～



これが備後紺の鋳型模様なんだ。



備後紺の色や柄も変わっているけれど、がだんだん柔らかくなっている。



どんなに引っ張っても破れないデニムは備後紺の生地が強さと一緒だね。

イ 児童の感想

- ・ 紺にはいろいろな種類があり、手触りも柄も全て違うことを初めて知りました。備後紺の手触りの予想はサラサラしていると思っていましたが、触ってみると少しサラサラで少しザラザラという微妙な感じで驚きました。サロン紺の手触りが会社の人々のシャツみたいな生地で柔らかくて気持ち良かったです。デニムを実際に引っ張ってみると「横にも縦にも伸びて、どこまでやっても破れない。」という上岡さんが言われていたことが「本当だ。」と思いました。
- ・ カイハラ（株）はジーンズのデニム生地を作っていることは知っていたけれど、デニムを作り始めたのは戦争で紺を使う人が少なくなったこと等がきっかけだということにびっくりし

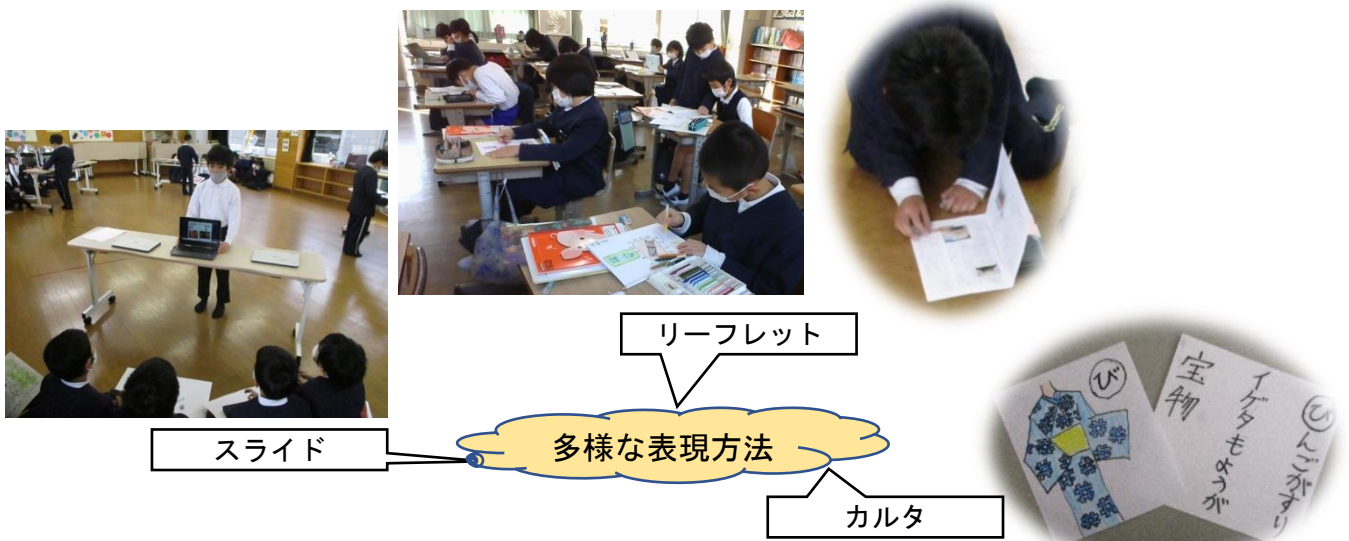
ました。そして、知らない間にカイハラ（株）のジーンズを履いていることがわかって、作っている人たちに感謝して大事に履こうと思いました。

- ・ 備後絣を知って、自分はずっとカイハラ（株）が作るようなツルツルしている洋服を着ていることに気付きました。カイハラ（株）はデニムを作るまでに大変なことをずっとして、絣やデニムを作るだけでなく、それを作る機械を自分達で作るなんてすごいと思いました。僕はわたの種を植えて育ててみることにチャレンジしてみたいです。

ウ 出前授業を終えて

実際に備後絣に触らせていただいたことで、備後絣とはどのようなものかやそのよさだけでなく、生地が進化していく過程も実感することができた。また、カイハラ（株）の歴史も知ることによって、カイハラ（株）が備後絣を作る技術をデニム作りに生かして会社の危機を乗り越えた企業の努力を知り、考え工夫しチャレンジすることの大切さを学ぶことができた。

単元のまとめとして、3年生に伝統工芸のよさを紹介するために、タブレットでスライドを使って伝統工芸の宣伝を作ったり、リーフレットで伝統工芸のよさをまとめたりした。さらに社会科でも「広島県」カルタを作り、多様な表現方法で取組むことができた。



③5年 「地域の環境と米作り」

5年生は、常金丸の環境について学習する中で、お米のおいしさを知るとともに、川の水質について調べた。そこで、常金丸を流れる川がとてもきれいであることを知り、地元の企業が環境に対してどのように取組んでいるかについて講義をしていただいた。

ア 出前授業の様子

- ・ カイハラのデニムの作り方
- ・ 工場で使った水や空気をきれいにする取組
- ・ 地元へ貢献するための企業の取組



イ 児童の感想

- ・カイハラ（株）はジーンズを作っていることを3年生の時に知ったが、地域のために水、空気をきれいにして排出していくという事を知り、とても驚いた。
- ・地元のために、朝ゴミ拾いを行うなどの仕事や自分達の利益と無関係のところに配慮しているのがとてもすごいと感じた。
- ・カイハラ（株）だけでなくそれ以外の企業も、環境に対してどのような取組を行っているか興味がある。
- ・カイハラ（株）のデニムで作られた制服が、自分たちの行く中学校で着られている。環境への取組みや地元への配慮をしている企業の制服が着られることを誇りに感じる。

ウ 出前授業を終えて

米作りを通して常金丸の川の水質がきれいだということに気付いたことで、地域の人や地元の企業がどのような取組を行っているか地域の環境問題について目を向けることができた。カイハラ（株）のデニムの作り方に加え、藍染で染めた水を独自の方法できれいにして川に戻す環境への取組を知り、とても偉大な企業が地元にあることを誇りに感じる事ができた。そして、地元の企業の取組を知ったことで、自分達に何が出来るか自分達の役割を考えることにつながった。

(3) 取組の成果と課題

学年に合わせた視点で3・4・5学年の3つの学年で出前授業を行ったことで、継続的に地元の企業と関わりがもつことができ、地元の企業に関心を持つことにもつながった。そのことは、とても効果的であった。「工場の仕事」「伝統工芸」「環境」という違う視点で出前授業を行っていたが、それぞれの視点で児童が地元への誇りを持つことにもなったと感じられる。

さらに、学習して作成した成果物（3年生が作った「新聞」と4年生が作った「リーフレット」）を紹介する機会を設けたことは、学習したことを伝えたいという意欲が継続することができた。最後までやり切ることができたこと（チャレンジ）、学習したことを伝える達成感を持てたこと（自己理解力）だけではなく、お互いの表現の仕方に刺激され、表現することに意欲を持つこと（表現力）となり次の学年への見通し（チェンジ）にもつながった。

私たちの知らないカイハラ（株）工場の中のことだ

リーフレットの宣伝をする4年生

新聞やリーフレットを交換して読み、感想を書き、伝える

わかったことやいいところを感想に書こう。

伝統工芸っていろいろあるから、今度調べてみたいな。

写真があるからよくわかるよ。

新聞の宣伝をする3年生

学校としてはコロナ禍で2年間工場見学ができなかったこと、カイハラ（株）としては児童の学習機会（見学等）をどのようにして行い地域貢献するか、という互いの接点を利用させていただいての今年度の取組であった。次年度は継続的に関わりを持たせていただくためには、適切な時期・内容を計画することが必要と考える。